

令和2年度学校自己評価システムシート (県立芸術総合高等学校)

目指す学校像	学芸を共に高め合い、芸術文化を担う人材を育成する高校
--------	----------------------------

重点目標	1 芸術的表現力と共通教科の学力向上を目指す意力の育成 2 芸術文化を担う人材としての人間性と社会性の獲得 3 芸術系進学重視型専門高校としての期待に応える進路実績の確保 4 芸術文化の発信による地域社会の活力づくりの推進
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	6名

学校自己評価						学校関係者評価	
年度目標						年度評価(1月28日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	■現状 ・第一線で活躍する外部講師や関係機関等と連携し、高度な芸術教育と生徒一人一人の個性と能力を最大限に引き出すための教育活動を展開している。 ■課題 ・高校生として、専門教科・科目と共通教科・科目を隔てることなく、意欲的に取り組める生徒の育成が必要である。 ・生徒の学力向上・学習意欲の向上・学習習慣の確立に繋がるよう、工夫された取組等を情報共有するとともに実行していく必要がある。	新学習指導要領が目指す資質・能力の獲得に向けた授業の工夫・改善 自学自習の意欲を高める取組の推進	①生徒の「主体的・対話的で深い学び」を深化させた授業実践 ②教員間の授業見学や研究協議等の実践 ③学科・教科等の枠を超えたコラボレーションの推進	①協働的な学びを通じた生徒の変容が確認できたか ②新学習指導要領に基づいた授業の工夫と改善することができたか ③学科・教科の枠を超えたコラボレーションができたか	①②各教科、学科でジグソー法その他、工夫した「主体的・対話的で深い学び」の実践を重ね、アンケート調査で「授業に主体的に取り組んでいる」に対し、生徒は94%が、保護者は93%が肯定的な回答をするなど効果が確認できた。 ③年次集会等で学科を超えた取組があった。	A	○新教育課程に係る観点別評価の細部について全教職員の共通理解を図る必要がある。 ○より効果的な google classroom の活用や今後導入される生徒が所有する端末を校内ネットワークに接続して行う学習(BYOD)に係る授業実践の研究を進める必要がある。
2	■現状 ・多くの生徒・保護者が学校に満足しており、充実した学校生活を送っている。 ・文化祭や体育祭等の学校行事や各学科の教育活動において、多くの生徒が主体的に判断し、行動している。 ■課題 ・多くの生徒が満足している傾向を維持するための方策を検討する必要がある。 ・生徒は、4学科との交流や合同作品・地域との交流に対して意欲的である。 ・スケジュール管理の徹底により無理のない実施ができるよう検討する必要がある。	芸術文化を担う人材としての意識向上	①「芸術文化を担う人材」として、全職員が共通理解に基づいた指導実践 ②全教職員の共通理解と情報共有された生徒指導 ③学科間での創作活動・表現活動の時間管理の情報共有と効果的な活動 ④芸術文化を担う人材像を学校内外へ発信	①芸術文化を担う人材像のイメージが学校外で共有され、生徒の行動の変化があったか ②生徒指導に関わる一人一人の意識の変化は見られたか ③効果的な時間管理の情報共有と活動状況を把握し、うまく調整することができたか ④ホームページや広報活動を通じて発信できたか	①芸術文化を担う人材の育成の一環として、市民文化センターミュージズとの連携協定ができた。 ②アンケート調査で「学校生活のマナーはよい」に対し、生徒は95%、保護者は93%が肯定的な回答をした。 ③より厳しい時間的制約を強いられながら、学科間で活動状況等を調情報共有し、安全に配慮した可能な限りの活動ができた。 ④特にホームページにおいて各学科の行事、授業の様子など効果的に発信できた。また、海外の高校とオンライン交流会を実施し、メディアに取り上げられるなどした。	A	○学校外からの新規依頼も多数あったが、感染防止・授業確保の観点から、協力ができなかった。次年度は、各状況を踏まえ、生徒や教員の過度の負担にならないように精選しながら実施する必要がある。 ○ホームページは、各学科で随時更新を行い、広報活動を引き続き行う必要がある。
3	■現状 ・東京芸術大学をはじめとする芸術系大学への進学希望者が大多数であり、芸術系の私大を中心に、約8割の生徒が現役で進学している。 ・大学入試改革1年目として、生徒の多様な進路希望に適切に対応するための環境が整ってきている。 ■課題 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う大学入試等の在り方を情報収集するとともに、学校全体で情報共有し、組織的な進路指導に繋げていく必要がある。 ・1年次から長期的な視野で進路指導に当たることが重要である。	緊急事態に対応した全職員による進路指導の推進	①学科・年次が連携した全職員による進路指導 ②芸術系大学への進学のための実技試験対策や受験科目の補習・補講等の充実 ③「高校生のための学びの基礎診断」を活用した進路指導 ④卒業生・外部を活用した進路指導	①平日補習・各種課題配信・自学自習等、連携した取組ができたか ②生徒のニーズにあった補習・補講等ができたか ③「高校生のための学びの基礎診断」を効果的に活用できたか ④卒業生・外部を活用した進路指導等、組織として実施できたか	①平日補習・1年次の朝学習の課題配信・自学自習等において、連携して進路指導を行った。 ②夏季休業中の集中補習週間を確保し、延べ321人(約71%)が参加した。(昨年度45%) ③感染防止対策上、工夫した振り返りの研修を行うことができた。 ④卒業生・外部を活用した進路指導のある中で実施することができた。	A	○生徒の進路希望実現のため、朝学習のより一層の定着を進める必要がある。 ○今年度と同様に、夏季休業中の補習は、各学科と連携して生徒が参加しやすい環境を維持する必要がある。 ○次年度も自習室の換気及び手指消毒液の設置・機の消毒など、安全に自習室を開放できる体制を維持する必要がある。
4	■現状 ・アウトリーチ活動は定着し、学校の魅力が地域社会に浸透している。 ・誠意をもって生徒募集に取り組み、一度来校した生徒がリピーターとなり、志願者希望に繋がっている。 ■課題 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に対応した生徒募集の在り方を早急に検討する必要がある。 ・各学科で工夫したお互いの活動について共通理解が十分でなく、重複する部分もあり、重複する部分について精査していく必要がある。	緊急事態に対応した生徒募集及び広報活動の実施	①今年度に限定した校外活動や生徒募集方法等を生徒募集企画室を中心に幅広く意見を求めるとともに早急に検討して実行 ②各学科の生徒募集のデータ分析の情報共有と改善 ③学科・年次を超えた全職員による生徒募集の取組 ④生徒の魅力を最大限に活用した学校説明会・学科説明会・体験入学の実施	①今年度に限定した生徒募集ができたか ②各学科のデータ分析をさらに深化させた内容とデータ分析ができたか ③学科・年次を超えて、全職員で生徒募集に取り組むことができたか ④生徒の魅力を学校説明会・学科説明会・体験入学等で伝えることができたか	①校外学校説明会の中止に伴い、限定動画を配信した。また、Web学校説明会・学科説明会を常設した。 ②各学科で、体験入学のデータ分析を行い、生徒募集企画室で情報共有することができた。 ③全職員の協力で安全に配慮して、生徒募集を行うことができた。 ④感染防止の観点から本校生徒の参加を制限したため、十分に伝えることができなかったが、動画等で魅力を伝えることができた。	A	○今年度に限定した生徒募集を生徒募集企画室を中心に、感染状況を踏まえ適宜変更しながら全職員の協力の下に、行うことができた。今後も感染状況等に対応した生徒募集や広報活動が必要と思われるため、より効果的な生徒募集を検討する必要がある。

実施日	令和3年3月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等	【達成度Aは妥当である】 ・休校が続いたにもかかわらず、生徒が授業に主体的に取り組めたのは、先生方の苦勞の結果だと思う。 ・学科・教科を超えたコラボレーションが効果的に実施できたのは評価できる。 ・年度当初はオンラインをもっと活用するなどして、もう少し迅速かつ有意義な授業代替ができると良かった。 ・オンラインを活用してより業務省力化を図り、リアルでなければできない活動をより充実させることに繋がると良い。 ・学習習慣定着に向け、よりきめ細やかな取組が必要である。
学校関係者からの意見・要望・評価等	【達成度Aは妥当である】 ・ミュージズとの連携協定でより社会と交わる機会が増加し、人材育成に必要な社会性を磨くことに繋がる。 ・文化芸術が果たす役割、その必要性を職員も理解し、生徒に伝えることが重要である。 ・「芸術を担う人材」の具体的なイメージ及び、将来のビジョンがより明確になるとよい。 ・他人と比較することではなく、自分らしさや自分の価値を見つけることが、成長に繋がる。 ・芸総のよさは、学校行事がアピールポイントになると思うので、中止・縮小となったのは大変残念である。 ・自分の表現に恥じない生活態度の育成とそうした態度を評価することが重要である。
学校関係者からの意見・要望・評価等	【達成度Aは妥当である】 ・1年生から進路指導を積極的に行い、自らの将来像を早期に明確にすることが、進路実現に繋がる。 ・卒業生と交流などでモデルケースに触れる機会を継続することが必要である。 ・夏休みの集中補習に71%が参加したことは指導の成果である。 ・オンラインを活用して海外で活躍する先輩との交流ができれば有意義な進路指導となる。 ・保護者に対する進路通信などもあったと良い。 ・目に見えないモチベーションやメンタル面にも注視してほしい。
学校関係者からの意見・要望・評価等	【達成度Aは妥当である】 ・動画配信による学校説明会を行うなど、的確に事態に対応したことを評価する。 ・芸術系の学校ならではの特色を生かした広報活動を展開してほしい。 ・オンラインの技術により「地域社会」という概念が大きく変容した。これまでの取り組みに捉われないことなく、積極的に新しい試みに挑戦してほしい。オンラインの活用で、速くの人々との容易に繋がることができるので、最大限に活用してほしい。 ・実技検査に不安のある受検生は多いので、体験等で在校生との交流は必要である。 ・HPや広報活動についてはまだ不十分だと思う。保護者向けにメール配信をして、HPへ誘導するなどの工夫が必要ではないか。

